

2007年2月14日

平成18年12月期 決算説明会

株式会社メディビックグループ
(証券コード2369 東証マザーズ)

<目次>

1. 会社概要

P04 ■会社概要

P05 ■MediBicのビジネスとは

P06 ■組織体制

2. 第7期(2006年12月期)事業報告

P08 ■メディビックグループ

P10 ■バイオマーカー創薬支援事業

P16 ■創薬事業

P20 ■投資・投資育成事業

3. 第7期(2006年12月期)決算報告 P22-

4. 今期の見通し P25-

1. 会社概要

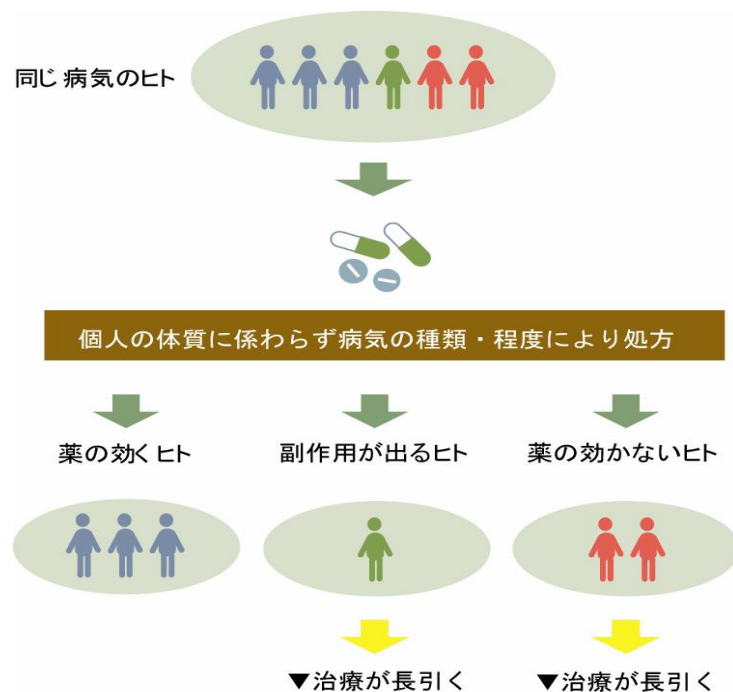
1-1. 会社概要

(2006年12月31日現在)

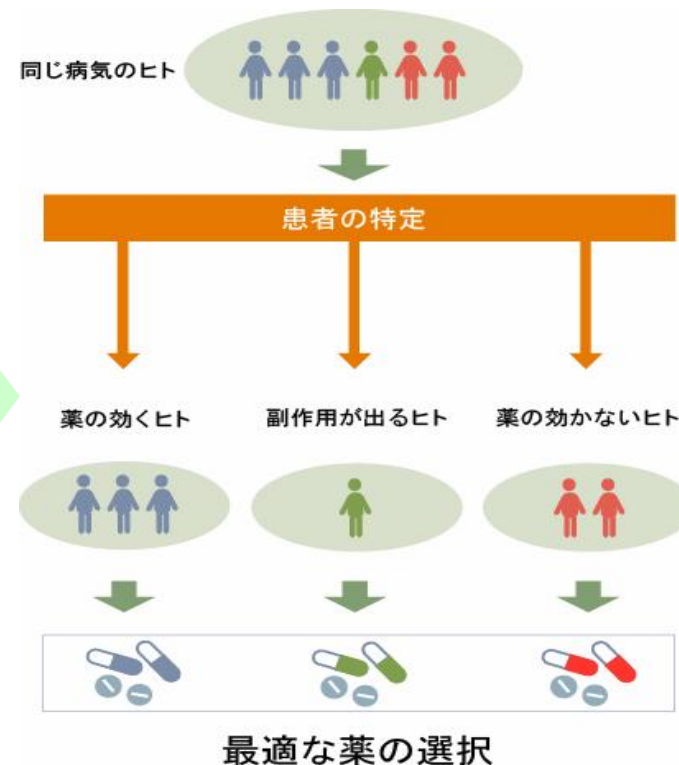
会社名	株式会社メディビックグループ
本社	東京都千代田区霞が関1-4-2 大同生命霞が関ビル8F
設立	2000年2月17日
代表者	橋本康弘(易周)
資本金	15億8,010万円
上場証券取引所	東京証券取引所マザーズ (証券コード:2369)
社員数(連結)	42名 (常勤役員含む)
子会社	(株)メディビック ※7月3日に(株)メディビックグループより新設分割で設立 (株)メディビックファーマ (株)メディビック・アライアンス Anexus Pharmaceuticals, Inc.
事業内容	バイオマーカー創薬支援事業 【(株)メディビック】 創薬事業 【(株)メディビックファーマ】 投資・投資育成事業 【(株)メディビック・アライアンス】

1-2. MediBicのビジネスとは

これまでの医療



個の医療(個別化医療)



患者さん個人の体質に合った、副作用を抑えて有効性を最大限に引き出せる創薬(テーラーメイド創薬®)の実現を目指した事業展開を進めている。

1-3. 組織体制

(株)メディビックグループ

グループ全体の意思決定・監督機能

- └◆ アネクサス・ファーマシューティカルズ・インク(米国)
- └◇ 上海事務所(中国)

バイオマーカー創薬支援事業

バイオマーカーなどの情報を活用し医薬品開発を支援する。主要サービスはPGx試験を支援するPGxトータルソリューションサービスなど。

- └◆ 株式会社メディビック (会社分割で06年7月新設)
- └◇ 関西ラボ

創薬事業

国内外の医薬品候補化合物を発掘し、独自に付加価値を高めていく。現在、主にすい臓がんを対象とした抗がん剤グルフォスファミドの国内臨床試験を進めている。

- └◆ 株式会社メディビックファーマ (06年3月新設)

投資・投資育成事業

ライフサイエンス企業を中心に日本やアジア諸国の有望なベンチャー企業へ質の高いフィナンシャルサービスを提供する。

- └◆ 株式会社メディビック・アライアンス

バイオマーカー創薬支援事業

株式会社メディビック

コンサルティング

創薬事業

株式会社メディビックファーマ

投資・投資育成事業

株式会社メディビック・アライアンス

2. 第7期(2006年12月期)事業報告

2-1. メディビックグループ

中期経営計画を発表し持株会社へ移行

- 中期経営計画を発表（1月）

- 持株会社制へ移行（7月）
 - ・(株)メディビック・ファーマ新設（※3月）
 - ・(株)メディビックグループに商号変更
 - ・事業子会社(株)メディビックを会社分割により新設
 - ・(株)メディビック・アライアンス減資

- 資金調達（9月）

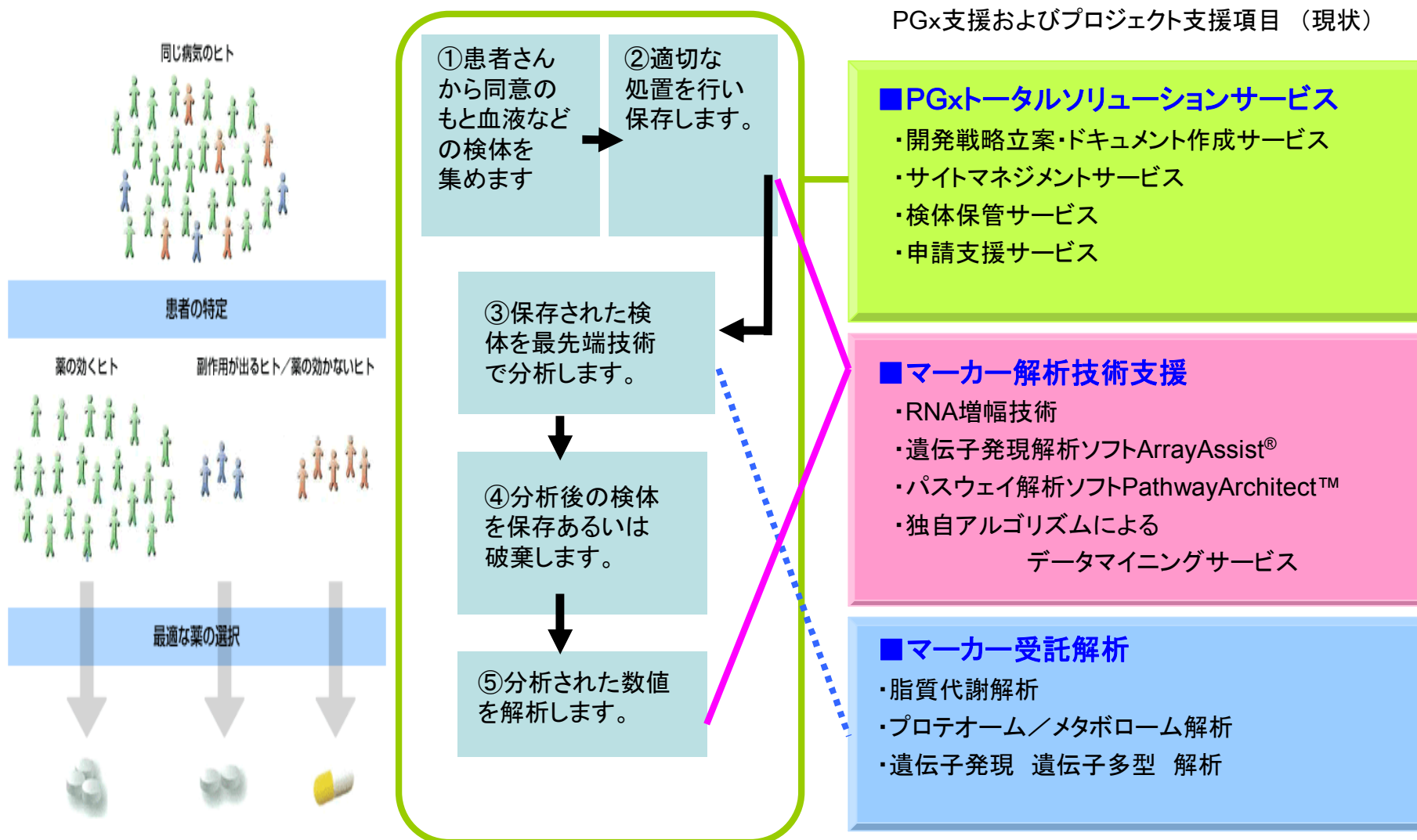
■ 資金調達

中期経営計画実現に向けた事業活動の加速と財務基盤の充実が目的

1. 調達資金は事業拡大に使用
 - 1) 有力な技術を持つ企業との事業提携
 - 2) PGx事業のさらなる拡大
 - 3) 投資事業の拡大
2. 当社の選択によりいつでも本新株予約権を取得し消却できる。
3. リーマンブラザーズ証券が有する、投資家ネットワークを活用し、希薄化による株価下落圧力をできるだけ軽減する。

< 参照 2006・9・11プレスリリース「第1・2回新株予約権(いずれも第三者割当)発行に関するお知らせ」 >

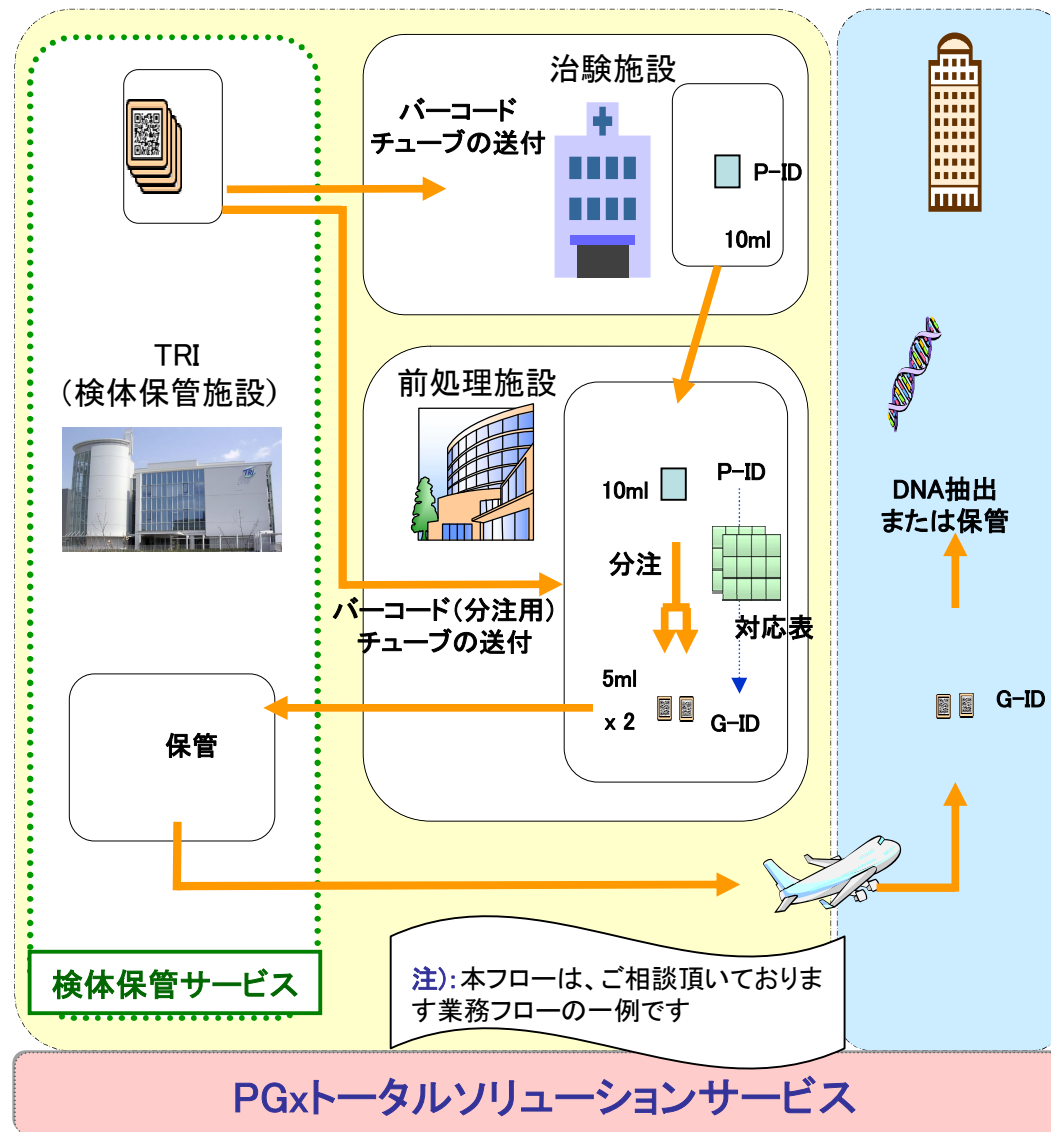
2-2. バイオマーカー創薬支援事業



PGxトータルソリューションサービス <概要>

全ての過程がGLPに準拠
(サンプル集荷からDNA解析まで)

- ・治験検体の取り扱い経験豊富な輸送会社によるグローバルな検体輸送
- ・国内外の複数の施設でトラック可能バーコードによる検体の一元管理
- ・当社独自の匿名化システムの提供
- ・独自の符番体系で検体の取り間違いを防止



GLP = 法令で定められている医薬品などの安全性評価試験の信頼性を確保するための管理・試験実施・報告基準

■ PGxトータルソリューションサービス <展開計画>

● 2006年

- ・検体管理設備のGLPオペレーション完了
- ・サンプル前処理 およびサンプルロジスティクス GLP オペレーションの完了
- ・製薬企業よりトータルソリューションの依頼 ⇒ 本格稼動

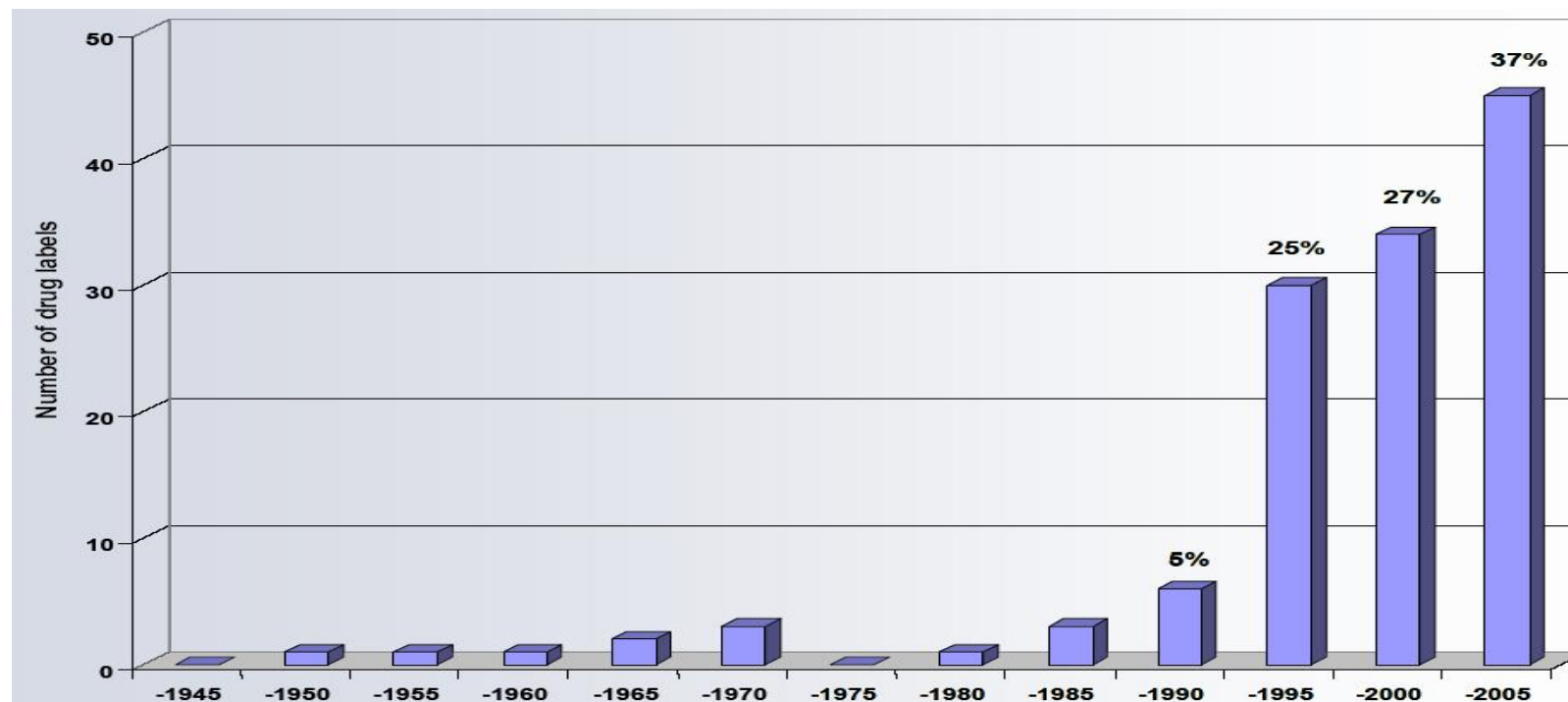
● 2007年

- ・施設マネジメントの充実
- ・米国 FDAに対してのPGx体外診断薬申請支援事業の開始
- ・中国におけるPGx支援の充実

● 2008年

- ・治験施設マネジメント本格稼動
- ・当局 体外診断薬 申請支援開始

■ (参考) PGx情報を含むFDA承認薬の推移



出所: "Personalized Medicine-Today!" Felix W. Frueh, Ph.D.,
CDER Clinical Ligand Assay Society, Louisville, KY, May 22, 2006 (FDA Presentationより)

・FDA(米国食品医薬品局)のPGxガイドラインを受けて国内当局もガイドラインを作成中。また、製薬協はPGxの実施に関する指針案を本年度内に発表予定。

■ PGxトータルソリューションサービス <優位性>

- バンキング公的施設
- 専門性を持った施設マネジメント
 - 施設関係者へのPGx妥当性を解説
 - ／ サンプルの取り扱いを指導
- 全過程がGLP準拠で行えるプロセスを完成

■ バイオマーカー創薬支援事業の展望

PGxトータルソリューションサービス(2007年事業方針)

- 施設マネジメントの充実
- 米国 FDAに向けた PGx体外診断薬申請
支援事業の開始
- 中国における PGx支援の充実
 - ー メディビック・アライアンスとの共同による
事業会社のPGx事業に関する提携
 - ー 中国 複数企業との連携による トータルサポートの実現
 - ー 欧米企業からの本格プロジェクト依頼を予想

2007年

バイオマーカー創薬支援事業の大幅成長を見込む

2-3. 創薬事業

事業子会社(株)メディビックファーマ

すい臓がんを対象とした抗がん剤グルフォスファミドの
国内臨床試験の準備を進める

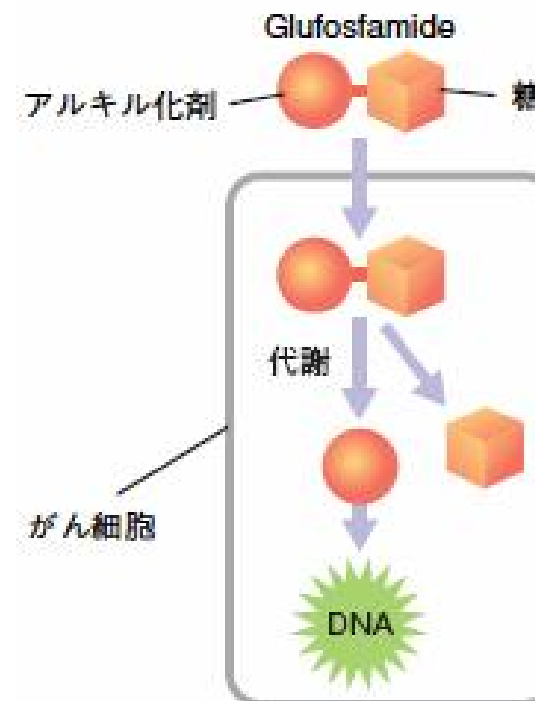
(2007年1月 第I相臨床試験開始)

将来的には、テーラーメイド創薬の概念に基づいた
バイオマーカーによる、投与対象患者の選別を検討

■ グルフォスファミドの共同開発

グルフォスファミド (Glufosfamide)とは

グルフォスファミドはがん細胞に取り込まれると糖が外れ、がん細胞の増殖を抑制する。



主にすい臓がんを対象とした抗がん剤の候補化合物。
米国・スレッシュホールド社と提携し、日本を含めた
アジア地域における開発、販売を行うための共同開発
を行っている。

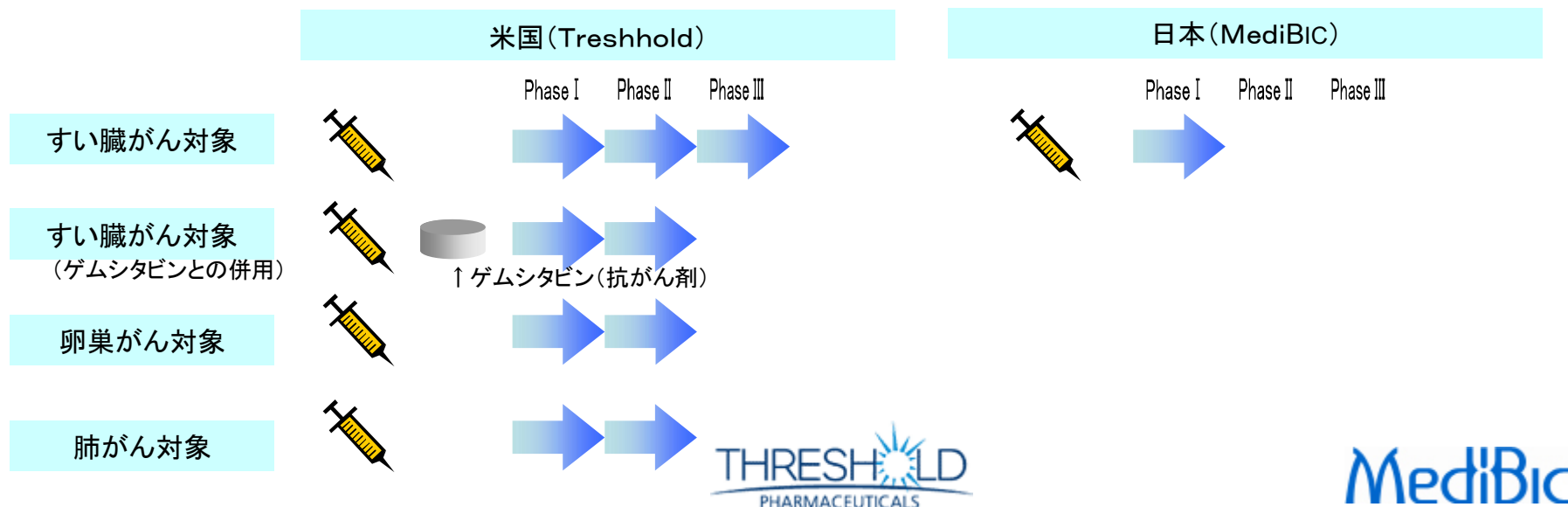
■ グルフォスファミド 国内第 I 相臨床試験

グルフォスファミド 国内第 I 相臨床試験開始

(2007年1月 第1例目への投与開始)

- ・固形がんの患者さんが対象
- ・主に安全性評価および臨床推奨用量の検討を行う
- ・終了まで約1年を予定

⇒ 終了後、すい臓がんの患者さんを対象とした有効性評価を行う臨床試験（第 II 相臨床試験）へ



■ グルフォスファミド 海外での進捗

FDA(米国食品医薬品局)から、「すい臓がん」への適用について希少疾病用医薬品に認定されるなど順調に推移。すい臓がんのほか、「卵巣がん」や「小細胞肺がん」に対する臨床試験も始まる。

米国でのグルフォスファミド開発状況 (パートナー 米・スレッシュホールド社)

- | | |
|----------|-----------------------------------------------|
| 6月 | IDMC(独立データモニタリング委員会)がPⅢ試験(すい臓がん対象)継続を推奨 |
| 9月 | FDAから「すい臓がん」の適用について、希少疾病用医薬品(オーファンドラッグ)に指定される |
| 11月 | PⅢ試験(すい臓がん対象)結果公表延期のお知らせ |
| 12月 | ゲムシタビンとの併用のPⅡ試験(すい臓がん対象)結果を発表 |
| 2007年 1月 | プラチナ製剤抵抗性のある卵巣がん患者を対象としたPⅡ試験開始 |
| 2月 | 再発小細胞肺がん患者を対象としたPⅡ試験開始 (※P=Phase) |

2-4. 投資・投資育成事業

事業子会社(株)メディビック・アライアンスではファンドも合わせて約30社の営業投資有価証券を保有。
2006年12月期には新たに4社が新規上場。
2006年までの3カ年の収益成長率は1000%を超える。

- 1月 投資先 Crystal Genomics社 KOSDAQ上場
- 6月 投資先 (株)リンフォテック 株式の一部を韓国企業へ売却
- 9月 投資先 Bioheart Korea社 既上場企業BHK社による
合併買収によりKSE上場株式として売却可能に
- 10月 投資先 (株)ファンドクリエーション JASDAQ上場
- 11月 ファンドの投資先Digital Genomics社を既上場企業KBC社
が買収し、KOSDAQ上場株式として売却可能に

■ 韓国、中国でのファンド組成

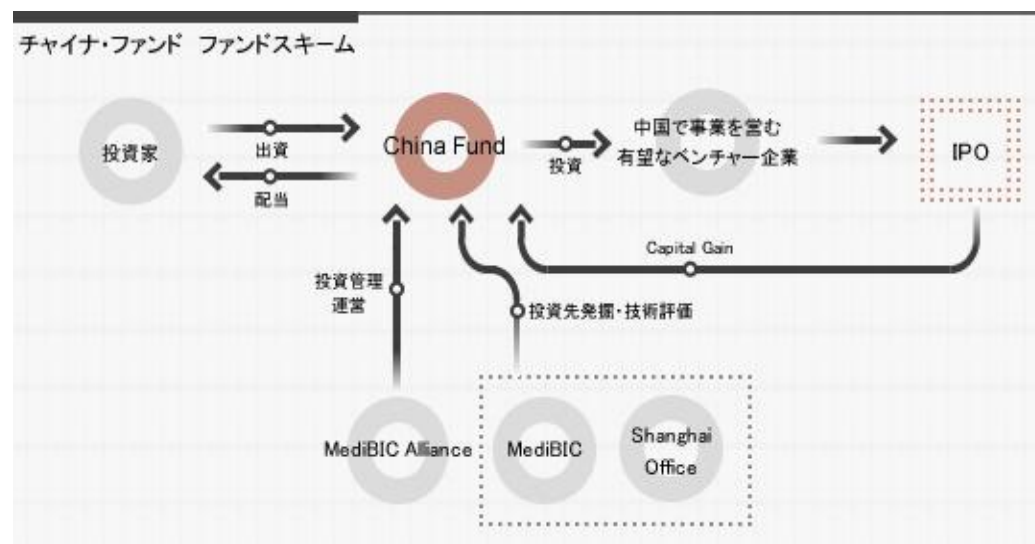
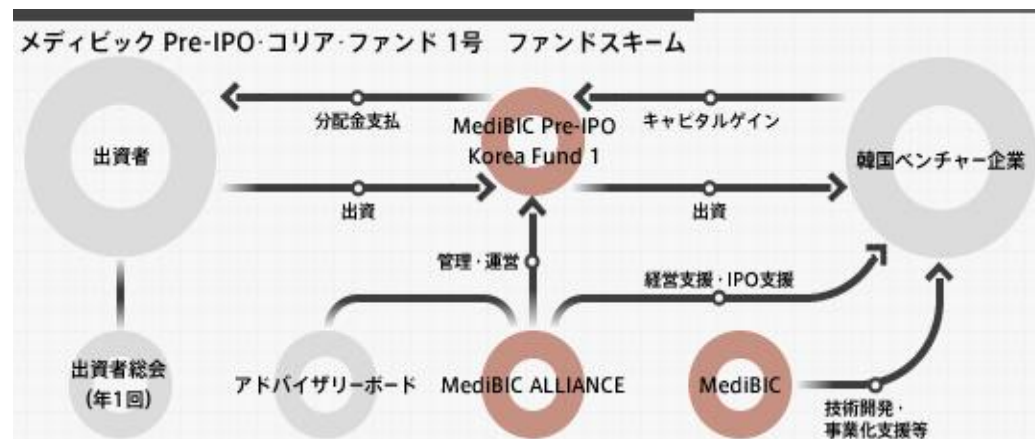
[韓国]

・プライベート・エクイティ市場において「メディビック Pre-IPO・コリア・ファンド」を設立。

[中国]

・上海駐在員事務所や強力なネットワークを通じ、積極的にプライベート・エクイティ業務を展開。

・ファンド等を通じ、医薬品開発、IT企業などへ約2億円を投資。



3. 第7期(2006年12月期)決算報告

3-1. 2006年12月期 連結業績

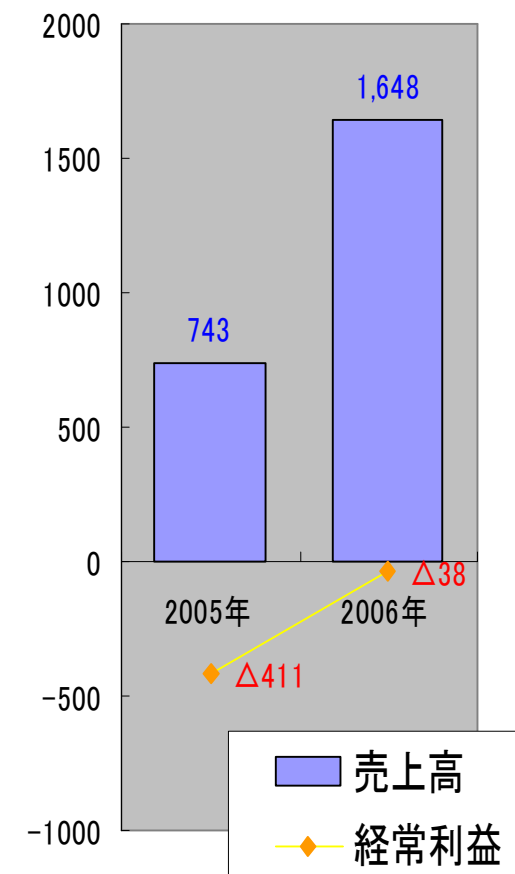
■ 主要経営指標(連結)

(単位: 千円)

	2005年	2006年
売上高	743,359	1,648,430
経常利益	△411,537	△38,642
当期純利益	△425,452	△203,322

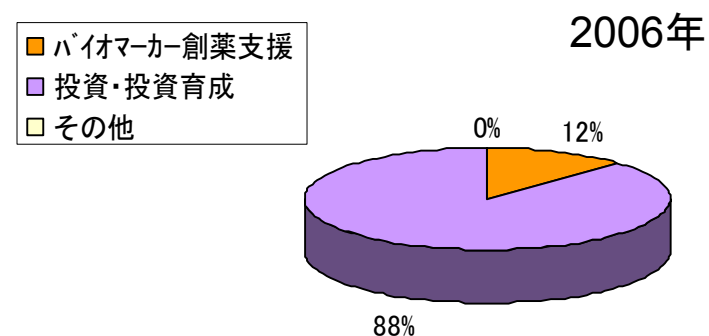
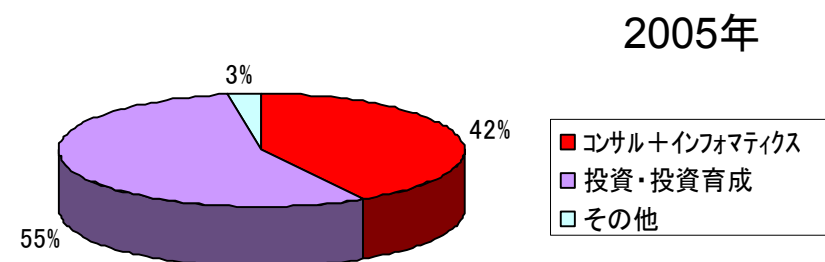
2006年度(対前年比)

- ・売上高121.8%増
- ・経常損失3.7億円改善



3-2. 2006年12月期 連結業績 事業別(前期比較)

	2005年	2006年
売上高 (千円)	743,359	1,648,430
コンサルティング (千円)	309,348	
インフォマティクス (千円)		
バイオマーカー創薬支援 (千円)		203,955
創薬 (千円)	0	0
投資・投資育成 (千円)	413,198	1,444,042
その他 (千円)	20,812	432



バイオマーカー創薬支援事業は、継続性のないプロジェクトを削減し、「PGxトータルソリューションサービス」の提供開始へリソースを集約、体制を確立させたことなどにより、売上高が減少している。同サービスはすでに国内外大手製薬企業から受注を受け本格稼動を始めているものの、2006年売上(連結)には一部しか計上されていない。

4. 今期の見通し

4-1. 今期の見通し(1)

2007年12月期 連結業績予想

・売上高1,597百万円 ・経常損失352百万円 ・当期純損失366百万円

- ・中期経営計画(2006-2008)の遂行
市場の影響により見込んでいた数社の投資先の上場に若干の遅れ
⇒ 現在リカバリープランを策定中

[バイオマーカー創薬支援事業]

- ・事業単体での営業利益黒字化へ
- ・PGxサービス～一層の売上獲得と利益率の向上
- ・技術とサービスの強化

4-2. 今期の見通し(2)

[創薬事業]

- ・グルフォスファミド ～ 国内臨床試験の遂行

[投資・投資育成事業]

- ・国内投資のみならず、中国、韓国におけるプライベート・エクイティ事業(未公開企業投資)を強化。ライフサイエンス分野を中心に有望なベンチャー企業を対象として、収益拡大、投資パフォーマンスの向上を図る。

- ・特に中国、韓国での投資は事業化推進、マーケティング支援などハンズオンの育成事業にも注力する。

- ・機関投資家・証券会社の販売網を通じた未公開企業投資ファンドの助言活動を拡大していく。

株式会社メディビックグループ

www.medibic.com

◇ 当資料取り扱い注意点

本資料に記載されている、当社または当社グループに関連する業績見通し、計画、方針、経営戦略、目標、予定、事業の認識、評価などといった、将来に関する記述は、当社が現在入手している情報に基づく、本資料の日付時点における予測、期待、想定、計画、認識、評価等を基礎として記載されているに過ぎません。また、見通し・予想数値を算定するためには、過去に確定し正確に認識された事実以外に、見通し・予想を行うために不可欠となる一定の前提(仮定)については、その性質上、客観的に正確であるという保証も将来その通りに実現するという保証もありません。また、新たな情報、将来の事象、その他の結果に係わらず、常に当社が将来の見通しを見直すとは限りません。これらの記述ないし事実または前提(仮定)が、客観的には不正確であったり将来実現しないという可能性の原因となりうるリスクや要因はこれらの事項に限られるものではありません。